

名古屋市内の商店街の寂れに関する研究

1. 論文構成

- 1章.はじめに
 - 1-1. 目的と背景
 - 1-2. 既往研究
- 2章. 方法
 - 2-1. 調査対象
 - 2-2. 寂れの定義
- 3章. 調査
 - 3-1. 現地調査
 - 3-2. 寂れ度マップ
- 4章. 調査結果
 - 4-1. 区ごとの寂れ
 - 4-2. 寂れと様々な要素の関係
- 5章. おわりに
 - 5-1. まとめ

2. 目的と背景

1950年代から60年代の高度成長期にかけて急速に発展した商店街だが、バブル崩壊以降は多くの商店街が衰退の一途をたどっている。

■主な衰退要因

- ① 自動車の普及
- ② 郊外型大型ショッピングモールの建設
- ③ 経営者の高齢化

本研究では、名古屋市内の衰退しつつある商店街とその周辺を調査・分析し、寂れた商店街に見られる特徴・共通点と、寂れやすい地域を明らかにすることを目的とする。

3. 調査対象

商店街一覧に記載されている121の商店街の内、名古屋市営地下鉄・名鉄・JRの駅から徒歩10分以内にある102の商店街を対象とした。商店街の衰退原因の一つとして、自動車の普及による交通手段の移行が関係していることが分かっているため、鉄道駅周辺の商店街のみを選出した。

市営地下鉄全線 + JR線 + 名鉄線



駅から徒歩10分以内の102の商店街

4. 寂れの定義

現地調査を進めるにあたり、市営地下鉄名港線の日比野駅・六番町駅と、東山線の中村日赤駅・今池駅周辺の8商店街にて予備調査を行ったところ、営業していない店舗に以下の共通点が見られた。

予備調査から得られた共通点=「寂れ感を醸成する要素」

- ① シャッターが下りている
- ② 店のテント・看板などが破損している
- ③ 店の前に粗大ゴミなどが放置してある
- ④ 店の中の様子が分からない
- ⑤ 店の前に手入れのされていない植木が沢山ある

これらの項目に当てはまる店舗が占める割合を調査



商店街ごとの寂れ度を決定



【写真1】シャッターが下りている



【写真2】店のテント・看板などが破損している



【写真3】店の前に粗大ゴミなどが放置してある



【写真4】店の中の様子が分からない



【写真5】店の前に手入れのされていない植木が沢山ある



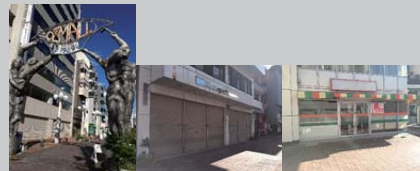
5. 現地調査

事例①新大門商店街（市営地下鉄東山線・中村日赤駅、桜通線・中村区役所駅 / 徒歩5分）



メインの通りには新規店舗も見られたが、一本入った脇道には、テントや看板が破損した空き店舗が目立った。

事例②大曽根商店街振興組合（市営地下鉄名城線、JR線、名鉄線・大曽根駅 / 徒歩5分）



所々が錆びた、入口の大きな門が寂れ感を出していた。歩道は綺麗に整備してあるが、空き店舗が多かった。

事例③熱田神宮前商店街（名鉄線・神宮前駅 / 徒歩1分）



商店街内にあるほとんど全ての店舗が営業しておらず、シャッター商店街となっていた。

事例④柴田商店街（名鉄線・柴田駅 / 徒歩0分）



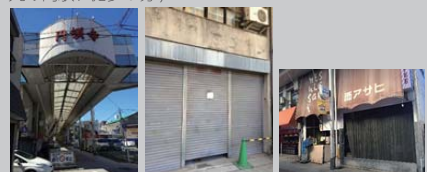
シャッターが下りている、テント・看板が破損しているなどの空き店舗が多く、寂れた印象を受けた。

事例⑤名古屋駅西銀座通商店街振興組合（名古屋駅 / 徒歩5分）



名古屋駅の西側にある商店街。多くの人が行き交う名古屋駅周辺とは思えないほど、寂れていた。

事例⑥円頓寺商店街振興組合（市営地下鉄鶴舞線、桜通線・丸の内駅 / 徒歩6分）



新規店舗も見られたが、シャッターを下ろしていたり、看板の文字が無いなどの空き店舗が目立った。

事例①の滝子商店街振興組合（市営地下鉄桜通線・桜山駅 / 徒歩9分）



入口の門はまだ新しくしたが長年改装していない店舗、営業していない店舗が多く見られた。

事例②の尾頭橋西部商店街振興組合（JR線・尾頭橋駅 / 徒歩6分）



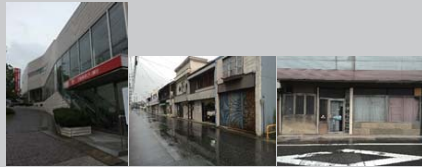
尾頭橋商店街より西に伸びる商店街。新規店舗もいくつか見られたが、空き店舗も多く見られた。

事例③の築地口商店街振興組合（市営地下鉄名港線・築地口駅 / 徒歩0分）



店舗数は多く、密集していた為、商店街らしさがあった。しかし多くの店舗が営業していなかった。

事例④の鳴海商店街協同組合（名鉄線・鳴海駅 / 徒歩2分）



南北に伸びるメインの通りは、新規店舗も多く綺麗に整備されていた。しかし一本道を入ると、長年改装していない店舗、空き店舗が多く、寂れた印象を受けた。

事例⑤の味鏡天神通商店街振興組合（名鉄線・味鏡駅 / 徒歩6分）



商店街の両端にある門の文字は消えたままになっていた。ほとんどの店舗が閉まっており、シャッターを閉めた店舗が何軒か並んでいた。

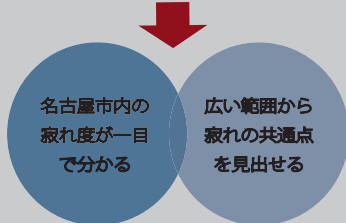
事例⑥の笠寺観音商店街振興組合（名鉄線・本笠寺駅 / 徒歩0分）



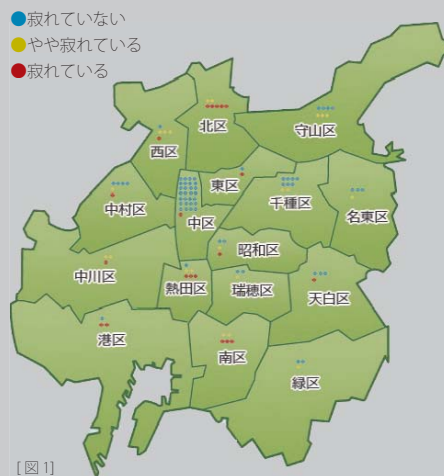
駅前から、大通りを挟んだ笠寺観音の方面まで、空き店舗が多く見られた。大通り沿いに新しいスーパーがあるが、長年改装していない店舗が多かったように感じた。

5. 寂れ度マップ

現地調査を行った102の商店街を、名古屋市全体の地図に寂れの程度ごとに3段階で色分けし、マップ化した。寂れの要素が一つでも当てはまる店舗の割合が2割未満は「寂れていない」、2～4割未満は「やや寂れている」、4割以上は「寂れている」とする。



6. 区ごとの寂れ



[図1]

[図1]は、現地調査を基に、商店街の寂れ度を名古屋市の地図に示したものである。中区や千種区、名東区のようにほぼ寂れが見られない区もあるが、北区、南区、熱田区のように、ほとんどの商店街が寂れている区もあることから、寂れ度は区ごとで大きく差があることが分かった。

- ・名古屋市の中心に横並びになっている中村区、中区、千種区、名東区の4区は、寂れ度が少ない
→市営地下鉄東山線が通っている
- ・名古屋市の東側に比べ、西側寂れ度が高い
- ・中心の4区より南北側は寂れ度が高い

7. 調査結果・まとめ

現地調査から、寂れた商店街には以下の6つの共通点が見られた。

①新規店舗が少ない、又は無い

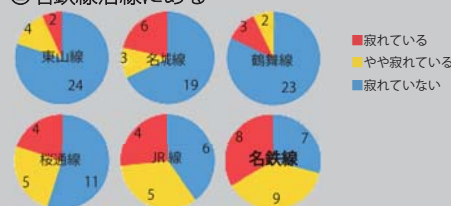
新しい店舗が少ない、又は無く、古い店舗や空き店舗が並んでいる商店街の人がほとんど歩いていなかった。



[写真6] 弁天通商店街

[写真7] 城東町通商店街

②名鉄線沿線にある



[図2] 各路線沿線の商店街の寂れ度

③区の高齢者率が高い

寂れ度が高く、高齢者率が25%以上の区
→北区、熱田区、南区

[表1] 各区の高齢者(65歳以上)の割合

千種	23%	中村	26%	熱田	25%	守山	22%
東	23%	中	21%	中川	23%	緑	20%
北	26%	昭和	23%	港	24%	名東	20%
西	23%	瑞穂	25%	南	27%	天白	20%

④公営住宅率が高い

商店街の寂れ度が高い、北区、南区、中川区、港区は、公営住宅団地が多かった印象を受けたが、実際に公営住宅率が高く、私の印象と一致していた(表2)。熱田区は、大型ショッピングモールもあり、商店街の寂れ度は高いが、区の人口が名古屋市内で一番少なく、近年、高層分譲住宅も次々に建っているため公営住宅率は低いと考える。

[表2] 各区の公営住宅率

千種	7%	中村	4%	熱田	6%	守山	9%
東	4%	中	3%	中川	15%	緑	7%
北	15%	昭和	2%	港	20%	名東	8%
西	6%	瑞穂	4%	南	13%	天白	7%

⑤商店街の構成の違い

メインの通りとサブの細い通りで構成されている商店街は、メインの通りに新規店舗が何軒かあるのに対し、細い通りには古い空き店舗が多く、寂れ度が高い場合が多かった。



[写真] 新大門商店街(中村区)

⑥西側に位置している(名古屋西、駅西)

寂れ度が一番低かった東山線沿線の商店街の中でも、千種区や名東区などの名古屋市東部に比べ、中村区、中川区など、名古屋市の西側の寂れ度が高かった。また、駅の東側にある商店街は活気があるが、西側の商店街は寂れている、北区の大曾根商店街のように、西に行くほど寂れ度が高くなっていく商店街もいくつか見られたことから、名古屋市内では、商店街は東側より西側の方が寂れやすい傾向が観察された。

住宅が密集している名古屋市東部に対し、西部には河川が多く、昔からの工場地帯であることが、西側が寂れやすい理由の一つであると考えられる。